

# これがオススメ! 読み聞かせ本

低学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

日本でも馴染み深いイソップ寓話、『うさぎとかめ』をご存知ですか。うさぎとかめが徒競走をして、途中で寝たうさぎにかめが勝つお話です。この話から学ぶ「競争するときは、どんなに得意なことでも油断してはいけない」「努力すれば必ず報われる」などの教訓は、長らく国語の教科書や道徳教材で使われてきました。

一方、今回紹介する『うさぎとかめ』は、お話の前後に創作を加え、競争相手を互いに認めて終わるといふ新しい視点で書かれています。

物語は、ねずみのイソップが、子ねずみに『うさぎとかめ』のお話をせがまれるところから始まります。話を聞き終えた子ねずみたちは、「もしかめが負けても、かめにはかめのとくいなことがある」というのです。この



## イソップねずみの イソップものがたり うさぎとかめ

しもかわらゆみ(文・絵)  
あかね書房

ように、イソップ寓話とは違った勝ち負けだけではない展開が、今回のおすすめポイントです。

イソップ寓話は、紀元前6世紀頃の古代ギリシャの寓話作家イソップにより語り伝えられたと言われています。『うさぎとかめ』『アリとキリギリス』『キツネとブドウ』など数多くの作品が、口伝から活字となってヨーロッパに広がり、日本に入りました。今回選んだ本を読み聞かせると、「飼っているうさぎは、昼間寝てばかりいるよ」「かめは、走る競争より長生きする競争を選べばいいの」など、子どもたちの日々の観察力や意見に驚きました。

読み聞かせで子どもたちの心が、深く広く豊かになることを願っています。

読み聞かせを続ける「コツ」は「楽しむこと」です。